

## ■特別プログラム

「学生支援態勢の充実—その方略を探る—」 ■

### 事例紹介

「三重大学における学生支援体制の構築」



三重大学 副学長  
中川 正

### はじめに

三重大学の中川です。三重大学が、どのように学生支援体制を構築してきたかについて、お話しさせていただきたいと思います。

三重大学は、5学部が1つのキャンパスにあります。学士課程の学生数は6,000名余り、大学院を合わせると7,000～8,000名になります。三重大学の教育目標は、感じる力、考える力、コミュニケーション力、そして総合力としての生きる力を養うことです。感じる力、考える力、コミュニケーション力は、17の下位要素からなり、生きる力は総合力と考えています。三重大学の「4つの力」は、「学士力」や「社会人基礎力」などと対応する概念です。

### 1 三重大学の学生支援方針

昨年度、学長は「三重大学学生支援方針」を宣言しました。「三重大学にとって受け入れた学生は『宝』です。その宝が輝くように、教員、職員、学生が一体となって支援します。」というものです〔図1〕。

この学生支援方針の実現のために、4つのDというものを提唱いたしました。一つは「Discovery」、学生の中に眠っている宝を探し出すという意味です。2番目は「Dream」、眠っている宝が最高に輝いた夢を描き出すという意味です。3番目が

「Design」、描かれた夢を実現させるステップをデザインするという意味です。4番目が「Destiny」、夢実現のステップを実践し、宝を輝かせるという意味です。

この4つのDは、われわれのオリジナルではございません。最近、市民社会の合意形成を行う上で、ワールド・カフェやオープンスペース・テクノロジーなど、いろいろなファシリテーション技術が開発されてきておりますが、その中でも、ポジティブな側面を引き出しながら合意形成をめざすという特徴を持ったアプリシエーティブ・インクワイアリーというアプローチを、学生支援方針の実現のために採用しました。

#### 三重大学の学生支援方針

- 三重大学にとって受け入れた学生は「宝」です。その宝が輝くように、教員、職員、学生が一体となって支援します。

#### 学生支援の4つのD

- 1.Discovery:学生の中に眠っている宝を探します。
- 2.Dream:眠っている宝が最高に輝いた夢を描きます。
- 3.Design:描かれた夢を実現させるステップをデザインします。
- 4.Destiny:夢実現のステップを実践し、宝を輝かせます。



〔図1〕

このアプリシエーティブ・インクワイアリーは、従来の問題解決型手法と対置されて説明されることがあります。問題解決型手法は、問題を発見して、原因を究明して、そして問題を解決するというもので、技術的な問題を解決するうえで有効です。ただし、人間や社会に関する現象を扱う上で、問題点があることが指摘されています。それは、「問題」ということばを中心に議論をしていく過程で、かかわっている人々の気持ちが暗くなっていくことです。アプリシエーティブ・インクワイアリーは、問題解決型アプローチとは逆に、まず良いもの、強みを探すことから始めます。「三重大で、あなたが一番いきいきとした経験は何ですか？」と具体的かつ個人的な質問をして、その成功事例の背景を細かく聞いていきます。「そのようなすばらしい体験ができたあなたには、どのような強みがあったのですか？」、「その体験を可能にするためにあなたを支えてくれた人はいましたか？」、「その体験を可能にした三重大には、どのような良い点があったのですか？」というように、組織的な要因から個人的な要因まで質問を通して明らかにし、その強みをグループでマッピングをしていきます。大学の良さ、支援者のすばらしさ、そして個人の強みを発見したうえで、それらの強みが最大限に生かされた将来の姿をできるだけ思い描き、その姿を生み出すための計画を策定し、実現に持っていくことを、学生支援方針を実現する手段として打ち立てました。三重大は、このアプリシエーティブ・インクワイアリーを、最初に学生支援方針に採用した大学として知られるようになりました。

この学生支援方針を図示する時に、「三重大サポ太」というキャラクターを加えました〔図2〕。ピアサポーター学生委員会の学生たちが「学生のサポーターをどのようにキャラクターとして表現しようか？」と話し合っている中で、生み出されたものです。この学生支援方針の中では、強みを発見するのが得意なサポ太、夢を描くのが得意なサポ太、頭が良くデザインが得意なサポ太、決意をもって実行するサポ太など、異なった強みを持ったサポーターたちが、それぞれの持ち味を生かしながら力を合わせ、宝を輝かせていこうというデザインとなっています。



〔図2〕

このキャラクター達は、社会に出て行くことを目指してネクタイを締めています。そのネクタイには、キャリア・ピアサポーターの頭文字であるCとPとSのマークがついています。このマークは同時に、キャリアスタッフ（C）、スチューデント（S）、プロフェッサー（P）が力を合わせて学生支援を目指すという意味でもあります。教員、職員、学生が組み合わせり、風車となり、伊勢湾から吹いてくる風で溶け合っていきます。また、この4つの葉は三重大教育目標である「4つの力」の育成や、学生支援方針である「4つのD」をも意味するというように、学生たちがアイデアを考えてくれました。この学生支援方針を大学のいろいろな箇所に張り出して、周知を図っています。

## 2 就業力育成カリキュラムと学生支援を連動

三重大学では、ピアサポーター養成を就業力育成カリキュラムと連動させています。三重大学が就業力を獲得させるために育成を目指しているのは、自立性と社会性です。入学時には、ほぼ全学の学生が「4つの力」スタートアップセミナーを受講しています。この「4つの力」スタートアップセミナーでは、40人のクラスを4人ごとのグループに分けています。そのグループの中で、学生たちは毎回自己省察をして、小グループにおける社会性を獲得しています。このセミナーをベースにして、ピアサポーターとなるための初級資格と上級資格を取得させるキャリア・ピアサポーター資格教育プログラムをつくりました。上級資格を取れば、SAになる道が開けるということになっています。共通教育では、このプログラムを通して、職業観を養成し、学内における社会性を養成します。そして、学部で開講される専門教育においては、社会と連携した学習を推進して、主体的に職業選択をする力や学外における社会性の育成を目指しています。

## 3 「4つの力」スタートアップセミナー

まず、一番基礎になるのが、初年次教育である「4つの力」スタートアップセミナーです。「4つの力」スタートアップセミナーは、2009年度に開始いたしました。第1期の三重大学の中期目標、中期計画の中で、PBL（Problem-based Learning）を中心とした教育改革をやりました。この教育改革は、「4つの力」を育成するための手法としては効果的であるが、「4つの力」そのものを教える授業科目がないという指摘を受け、PBLの伝統を生かしつつ同科目の開講を企画しました。1クラス40名で、固定の4人のグループをつくっています。毎回いろんなスタディースキルを学んでいく中で、2回ほどグループワークがあります。一方的な講義ではなくて、自分たちで発見させながらワンポイントの講義をしていくというかたちで、15回授業を行なっております。毎回、授業が終わった後には、それぞれの力が身に付いたか、そしてどれだけ自己学習をしたかを、グループで集まって記録させ、提出させています。

## 4 初年次クラスを通じた学生支援

まず、この初年次クラス自体が、学生支援体制となっています。三重大学では、初年次教育を専門に担当する3人の若い心理学者を採用し、彼らに29クラス中27クラスを担当してもらっています。一人当たり400名程度の学生を担当するわけですから、きめ細かな学生支援にならないのではないかと思うかもしれませんが、実際には大変効果を上げています。

まず、40人クラスを4人の固定グループに分け、毎回グループワークを行わせるとともに、授業外での振り返り課題を与えていますので、グループで学生たちが互いをケアし合うようになります。

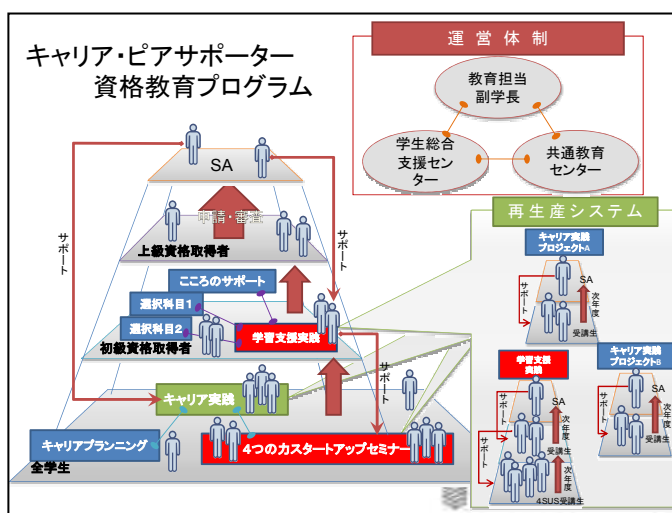
次に、上級生を配置して、授業補助をさせております。この上級生は、後で説明いたしますが、キャリア・ピアサポーターの初級資格を取った学生です。彼らは、配置されたクラスで、グループ間を回り、沈黙が続いているグループ、一人が支配しているグループなどに行き、指導補助をしながら、教員の意図が学生に伝わっているかを観察します。彼らは水曜日の5コマ目に、集まって、授業の模様や学生の反応に対して振り返りを行っています。それで、セミナー受講生たちでフォローが必要な学生たちへの支援の仕方を相談しています。

第三に、今年度より、セミナー担当教員たちに、3回連続でセミナーを欠席した学生を、学生

支援担当の副学長に報告させております。大変効果がありました。2011年度の前期は、29クラス、1,294名の受講生中、3回連続欠席したという報告は8名だけでした。この中には、原発事故の問題で中国に帰ってしまった一人の留学生と、不本意入学をしたために最初から一度も出てこなかった3人の学生が含まれていますので、ある意味では、かなり網羅的に不適合学生を見出すことができ、問題を未然に防いだと判断しています。

## 5 キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム

「4つの力」スタートアップセミナーをベースとして、キャリア教育と連動させる制度として、キャリア・ピアサポーター資格教育プログラムをつくりました〔図3〕。このプログラムを受講した学生には、2段階の学内資格が与えられます。初級資格は、他者と協力しながら活動ができる、基本的なピアサポートの能力を持っていると認められている者です。そして上級資格取得者は、自ら学ぶだけでなく、他者の学びをも支援できる能力があると認められている者であり、共通教育や学生支援にかかわるSA（Student Assistant）になることができます。



〔図3〕

初級資格を取得するためには、「4つの力」スタートアップセミナー、キャリアプランニングという必修科目と、キャリア実践科目と総称される選択必修科目の履修が必要です。キャリア実践科目は、具体的な大学の中の業務や学生支援自体を、就業力育成の材料として用いた授業です。キャリア実践科目には、留学生支援をテーマにした留学生支援実践、障がいをもった学生を支援する障がい学生支援実践、キャリアシンポジウム等を企画運営するキャリア・イベント実践、オープンキャンパスなどで三重大を紹介できることを目指す大学紹介実践、環境ISO学生委員会を育てる環境ISO実践、三重大の広報誌を作成する広報誌編集実践、学生生活を支援する学生生活支援実践、地域と連携する地域づくり実践などがあります。

初級資格を取るとその上に、上級資格があります。上級資格を取得するためには、学習支援実践という授業の履修が必要です。学習支援実践は、「4つの力」スタートアップセミナーのファシリテーションの授業です。学生が、29のクラスのうちの1つに割り当てられ、その中で授業補助を行い、水曜日の5コマ目に集まって、ともに振り返りを行うものです。「4つの力」スタートアップセミナーのクラスに学生が張り付いて、初年次の学生のケアを、学生の力を借りて組織的にする上で役立っています。この学習支援実践に加えて、このころのサポートという授業と選択科目を2つ取れば、上級資格取得者に認定され、SAとなる資格が生まれます。

## 6 共通教育キャリア教育の整備

キャリア・ピアサポーター資格教育プログラムでは、共通教育で開講しているキャリア科目すべてを、必修科目、選択必修科目、選択科目のいずれかに位置付けましたので、キャリア科目の受

講生は増加しました。平成 18 年度は 5 科目で 351 名受講でしたが、平成 20 年度には 15 科目で 1,352 名まで増えました。平成 21 年度からは「4つの力」スタートアップセミナーを始め、12 科目のキャリア科目を 943 名、「4つの力」スタートアップセミナーを 1,085 名が受講しました。平成 22 年度は 20 科目のキャリア科目を 1,344 名、「4つの力」スタートアップセミナーを 1,171 名が受講、そして本年度は 25 科目のキャリア科目のうち、前期の 12 科目だけで 1,034 名が受講しています。これに後期科目が加わりますので、かなり受講生が増えることとなります。「4つの力」スタートアップセミナーを含めると、基本的には、1 人 2 科目以上のキャリア関連科目を取っていることになると思います。

## 7 キャリア実践科目を通じた学生支援体制の構築

このように、授業をもちまかせながら、教務委員会、学生委員会、高等教育創造開発センター、共通教育センター、学生総合支援センター、ピアサポーター学生委員会をもちまかせながら、教員、職員、学生の協働体制を整備しております。

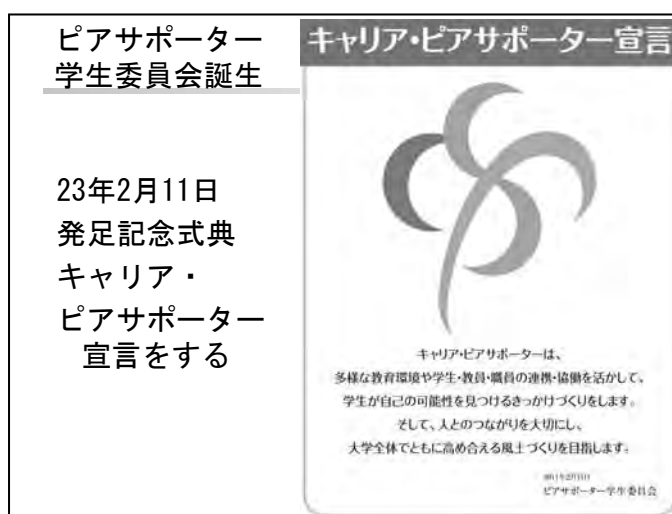
先ほどお話しましたキャリア実践科目を通じた学生支援体制は、次のようなものです。ピアサポート実践ですが、これはピアサポーターを養成するもので、ピアサポーター学生委員会がサポートしています。留学生支援実践は、留学生支援室のサポートを受けています。障害学生支援実践は、教育学部の特別支援教育講座がサポートしています。キャリア・イベント実践はキャリア支援センターがサポートし、その他にも地域づくり実践、広報誌編集実践、学生生活支援実践、大学紹介実践についても、それぞれサポートをする組織があります。このため、教員ばかりではなく、事務職員も授業にサポートに来る授業もあります。そして、キャリア実践科目を履修した学生たちから、2 人ずつ代表を出して、アカデミックフェア学生運営委員会をつくり、共通教育や専門教育授業や大学院での授業成果、学生成果を、社会に向けて報告する、アカデミックフェアを、毎年 2 月に実施しています。

## 8 学習支援実践科目の拡大

学習支援実践として、これまで、「4つの力」スタートアップセミナーの授業補助だけを教材としていたのですが、結果として理科系の受講生は限られました。それで、来年からは、科目を拡大することにいたしました。数学なんでも相談室の数学支援補助を行う学習支援実践Ⅱ、留学生に対する日本語学習支援者の訓練を行う学習支援実践Ⅲを新設することを予定しています。

## 9 教員・職員・学生が一体となった学生支援体制へ

キャリア・ピアサポーターは、平成 23 年度前期末で、上級が 11 名、初級が 51 名となっていますが、今年度末にはさらに



〔図 4〕

増えると思います。そして、キャリア・ピアサポーターによるピアサポーター学生委員会が、平成23年2月11日に発足いたしました。彼らが作ったロゴには、先ほど説明したいくつかの意味が込められています〔図4〕。そして、キャリア・ピアサポーター宣言は、学生たち自身が作成し、宣言したものです。このようなかたちで、三重大学は、教員、職員、学生が一体となった学生支援体制づくりに取り組んでいます。不完全な部分は多々ありますが、実施の過程で教員、職員、学生たちの意見も聞きながら、少しずつ改良していきたいと願っております。

以上でございます。ご清聴ありがとうございました。